

— 株主の皆様とのコミュニケーションツール —

クラレ通信

第135期 期末報告書

2015年1月1日～2015年12月31日



CONTENTS

- 1** … 株主の皆様へ
- 3** … 2015年度 決算概況
／2016年度 業績予想
- 5** … 【特集1】伊藤社長インタビュー
- 7** … 【特集2】松山カンパニー長インタビュー
- 9** … クラレグループトピックス
- 11** … 財務情報
- 13** … 株式情報
- 14** … お知らせ
- 巻末** … 会社概要

株式会社 クラレ



代表取締役社長 伊藤 正明

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2015年度(2015年1月1日~2015年12月31日)の経営環境は、日本経済は個人消費や設備投資の回復の遅れなど一部に弱さがみられましたが、緩やかな回復基調が続きました。世界経済は、米国は雇用情勢や個人消費が底堅く好調に推移したものの、欧州は先行きに不透明感があり景気回復に力強さがみられませんでした。中国経済の減速傾向は当年度の終盤にかけてさらに強まり、新興国でも成長が鈍化する国が増えました。2014年度終盤から続いている原油価格下落に伴う原燃料コストの低下は、一部の事業では販売価格の調整を余儀なくされましたが、当連結会計年度の業績においてプラスに働きました。

このような状況において、当社グループは「世界に存在感を示す高収益スペシャリティ化学企業」を実現すべく、今年度よりスタートした中期経営計画「GS-STEP」において掲げた経営戦略を順次実行しています。

2015年度の経営成績につきましては、売上高は前年同期^{注1}比36,752百万円(7.6%)増の521,721百万円、営業利益は14,694百万円(28.6%)増の66,077百万円、経常利益は13,574百万円(26.6%)増の64,535百万円、当期純利益は8,294百万円(30.2%)増の35,749百万円となりました。

2016年度は、国内景気は消費増税前の駆け込み需要の下支えが期待されるものの、低調な世界経済の影響を受け、先行き懸念が強まっています。国外においては、米国経済は順調に推移し、欧州は先行きが不透明であるものの緩やかな回復の継続が見込まれます。一方で中国および新興国経済は成長減速が続くと予想されます。また原油価格の下落は短期的には当社業績にプラスに働きますが、中長期的には地政学上のリスク拡大にも繋がり、世界経済に悪影響をおよぼす可能性があります。さらに、昨今の世界同時株安が実体経済に与える影響が予想しづらいなど、経営環境はますます不透明になっています。

2015年度にスタートした中期経営計画「GS-STEP」(2015年度~2017年度)では、コア事業の事業基盤をより磐石にすることによる競争優位性の向上、独自性の高い自社技術の活用による新事業の創出、生産プロセス改良や新プロセス確立による品質・コスト優位性の向上、外部資源のより一層の活用による新規事業領域の拡大などにより、高収益を実現するとともに、事業拡大に向けた経営基盤の構築を着実に進めてまいります。

こうした状況を踏まえ、2016年度は売上高5,400億円、営業利益700億円、経常利益680億円、親会社株主に帰属する当期純利益^{注2}2400億円を目指します。

また、当社は株主の皆様に対する利益配分を経営の重要課題と位置付け、2015年度から2017年度の中期経営計画「GS-STEP」期間中においては、持続的な業績向上を通じた利益配分の増加を基本方針とし、親会社株主に帰属する当期純利益^{注2}に対する総還元性向35%以上、且つ1株につき年間配当金36円以上としています。期末

配当金は、中間期の予想値通り1株当たり22円とさせていただきます。この結果、当期の配当金は中間配当金と合計しますと1株につき40円(配当性向39.3%)で期初予想からは4円の増配となります。2015年度中に予定していた自己株式の消却は、2015年6月に28百万株を消却いたしました。

2016年度の年間配当につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益^{注2}の予想値400億円を前提に40円(配当性向35.1%)とさせていただきます。

最後になりますが、本年3月1日に当社は防衛装備庁が発注する繊維製品の競争入札に関して公正取引委員会の立ち入り検査を受け、株主の皆様にはご心配をおかけしていることを心よりお詫び申し上げます。

当社は、立ち入り検査を受けたという事実を厳粛に受け止め、検査に全面的に協力するとともに、当社グループの役員・従業員一人ひとりがコンプライアンスの重要性を再認識し業務を遂行するよう取組を強化してまいります。

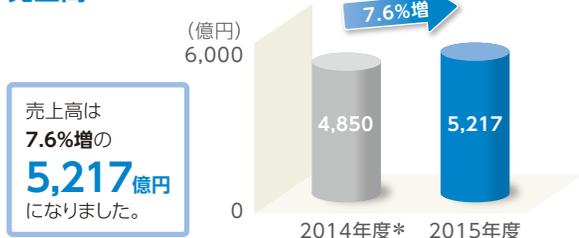
株主の皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(注1) 当社は2014年度に決算期を3月から12月に変更しましたので、前期と比較する場合には、当連結対象期間に対応する前年同一期間(2014年1月1日～2014年12月31日)に調整した数値と比較しております。

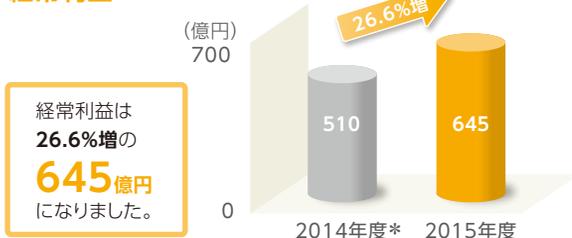
(注2) 「連結財務諸表に関する会計基準」の改正により、従来の「当期純利益」の表示が「親会社株主に帰属する当期純利益」に改正されました。2016年度より当社の連結財務諸表に適用となりますので、「親会社株主に帰属する当期純利益」と表示いたしました。

伊藤 正明

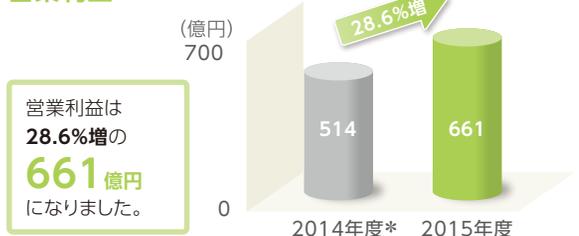
売上高



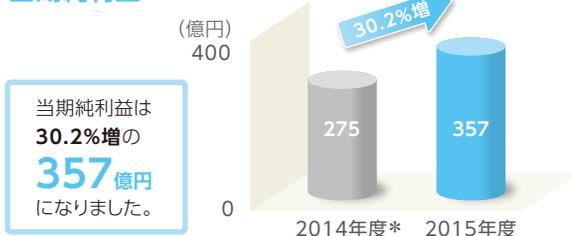
経常利益



営業利益



当期純利益



* 2014年度は、国内・海外ともに2014年1月～12月に補正した数値を示しております。

2015年度 決算概況

当社の15年度の業績は、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益の全てにおいて、前年同期を上回る結果となりました。また、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益の全てで過去最高を更新しました。

2015年度 実績

(億円)

	2015年度	2014年度*	増減
売上高	5,217	4,850	368
営業利益	661	514	147
経常利益	645	510	136
当期純利益	357	275	83
期中平均為替レート			
円/ドル	121	106	-
円/ユーロ	134	140	-
国産ナフサ価格/kl	49千円	69千円	-

セグメント別 売上高・営業利益

(億円)

	2015年度		2014年度*		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
■ ビニリアセテート	2,747	557	2,376	462	371	95
■ イソプレン	550	69	557	64	△7	5
■ 機能材料	569	56	538	20	31	36
■ 繊維	463	41	477	29	△14	12
■ トレーディング	1,196	39	1,192	38	4	1
■ その他	696	28	687	26	9	2
調整額	△1,005	△129	△978	△125	△27	△4
合計	5,217	661	4,850	514	368	147

* 2014年度は、国内・海外ともに2014年1月～12月に補正した数値を示しております。

金額表示は、億円未満を四捨五入して表示しています。

セグメント別の状況

■ ビニリアセテート

光学用ポバールフィルムは液晶パネルの数量増および大型化により販売量が増加しました。ポバール樹脂は総じて順調に推移しました。PVBフィルムは中国および南米向けが伸び悩みましたが、その他の地域でカバーしました。水溶性ポバールフィルムは旺盛な需要を背景に順調に拡大しました。EVOH樹脂(エバール)は、自動車ガソリンタンク用途、食品包装用途ともに順調に推移しました。

■ イソプレン

イソプレン関連では、ファインケミカル、熱可塑性エラストマー(セプトン)および液状ゴムは中国の景気減速の影響を受けました。耐熱性ポリアミド樹脂(ジェネスタ)は、自動車用途は順調に拡大しましたが、LED反射板用途、コネクタ用途は中国の景気減速の影響を大きく受けました。

2016年度 業績予想

2016年度 業績予想

(億円)

	上期	下期	通期
売上高	2,600	2,800	5,400
営業利益	320	380	700
経常利益	310	370	680
当期純利益	190	210	400
1株当たり当期純利益	-	-	113円89銭
1株当たり配当	20円	20円	40円

前提としている平均為替は米ドル120円、ユーロ130円、国産ナフサ39千円/klです。

2016年度 セグメント別予想

(億円)

	売上高			営業利益		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
■ ビニルアセテート	1,390	1,510	2,900	280	325	605
■ イソブレン	275	295	570	32	43	75
■ 機能材料	285	300	585	26	31	57
■ 繊維	235	250	485	22	23	45
■ トレーディング	605	645	1,250	18	22	40
■ その他	335	370	705	10	10	20
調整額	△525	△570	△1,095	△68	△74	△142
合計	2,600	2,800	5,400	320	380	700

2016年度 配当金について

40円/株 予定 (中間：20円、期末：20円)

配当性向：35.1%

「GS-STEP」期間中の利益配分

- 総還元性向：35%以上
- 一株当たり配当金：36円以上

機能材料

メタクリルは、一部樹脂用途で需要が減少しましたが、高機能品へのシフトなどにより順調に推移しました。メディカルは、歯科材料の新製品の上市が寄与し販売が拡大しました。人工皮革(クラリーノ)は、既存プロセス品ならびに新プロセス品ともに好調に推移し、収益が拡大しました。

繊維

ビニロンは高付加価値用途へのシフトもあり好調に推移し、生活資材他の伸び悩みをカバーしました。

トレーディング

化学品関連事業は概ね堅調に推移しました。繊維関連事業は円安により海外加工費が上昇しましたが、高機能素材の拡販によりカバーしました。

その他

その他事業は一部で中国の景気減速の影響を受けましたが、エンジニアリング事業の貢献もあり、堅調に推移しました。

過去最高業績を更新、「GS-STEP」の初年度



代表取締役社長 伊藤 正明

Q.1 | 2015年度を振り返って いかがでしたか。

A 「GS-STEP」の初年度の2015年度業績は売上高5,217億円、営業利益661億円、経常利益645億円、当期純利益357億円と、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益の全てで過去最高を更新できました。

事業別では、PVBフィルム、ファインケミカル、エラストマー、耐熱性ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉といった事業が中国の景気減速影響を受けましたが、光学用ポパールフィルムやガスバリア性樹脂〈エパール〉、個包装洗剤用途で需要が増大している水溶性ポパールフィルムの伸長や、メタクリルや〈クラリーノ〉の収益拡大などにより、順調に業績を拡大できました。原油安や為替の円高といった外部要因の追い風もありましたが、「GS-STEP」の初年度として順調なスタートとなりました。

Q.2 | 2015年度に実行された 施策を教えてください。

A 「GS-STEP」の主要戦略に基づく施策を実施いたしました。

「コア事業の深耕」として、食品包装材や自動車のガ

ソリタンク等に使用されるガスバリア性樹脂〈エパール〉のベルギーでの+11,000トンの増設を決定しました。これは新興国を中心とする需要の伸びに対応するもので、2016年末の稼働を予定しています。また西条事業所での光学用ポパールフィルムの能力増強を決定、2017年初の稼働を予定しています。さらに〈ジェネスタ〉の自動車用途のグローバルマーケティングを強化するため、欧州、米国、アジアの各拠点で営業および技術サービスの体制を整えました。

「技術革新」として、2015年4月に稼働した岡山事業所のビニロン新生産プロセスのパイロットプラントを活用して、生産技術開発を進め、新プロセスでのビニロン長繊維の生産技術をほぼ確立しました。新製品・高付加価値品の開発・拡販として、メタクリルでは高機能製品の開発を加速するとともに新製品のアクリルフィルム〈パラビューア〉の拡販を進めました。〈クラリーノ〉では、タンナー仕上げの天然皮革調〈ティレニーナ〉を開発しました。上市は2016年上期の予定で、高級天然皮革代替市場の開拓を進めます。

「次世代成長モデル」としては、2015年4月にバイオマス由来のガスバリア材事業を展開する豪州のPlantic社を買収しました。〈エパール〉で培ったバリア材の応用技術を活かし、バイオマスバリア材として本格展開を進め、事業領域の拡大を図っています。また歯科材料において、CAD/CAMビジネスの拡大を目指して、有機・無機技術を融合した新製品を上市し、製品ラインナップを拡充しました。

「経営資源の最適配置」として、2014年に米国デュボン社から買収したGLS事業と当社既存のビニルアセテート事業とのシナジーの早期発現と最大化を目的に、2015年7月1日付でGLS事業のVAM・ポパール樹脂関連事業をポパール樹脂事業部に、PVB関連事業をPVB事業部に統合し、より大きな事業規模での一体運営を開始しました。

一方で、米国のポパール新工場の建設工事遅延など目標に届かなかったものもありますので、2016年度は遅れを取り戻すとともに諸施策を遅滞なく着実に実施します。

Q.3 | 2016年度の 重点施策を教えてください。

A 2015年度に引き続き2016年度も「GS-STEP」の主要戦略に基づく施策を実施いたします。

「コア事業の深耕」として、米国ポパール樹脂新工場

として順調なスタート

の稼働に伴い、日本、ドイツ、シンガポール、米国の世界4極での最適生産体制を確立します。PVBフィルムは自動車用途のマーケティングを加速します。〈エパール〉は農業用途や産業用途といった新規用途開拓を加速するとともに、米国での能力増強により需要増に対応します。また水溶性ポパールフィルムも需要増に対応する能力増強を米国で実施します。インプレックス事業については、次期新プラント建設を含めた事業拡大策を検討します。

「技術革新」に基づく施策として、ファインケミカルとメタクリルにおいて、高付加価値品や高機能品の構成比率を高め、製品構成やポートフォリオを転換し、収益力の向上を図ります。ビニロン新生産プロセス開発においては、FRC(セメント・コンクリート補強)向けの短繊維の生産技術開発に注力します。さらにプロセス革新に向けて、ポリアリレート繊維〈ペクトラン〉の新生産プロセス開発を進めたり、各種ポリマーの重合触媒を開発する取り組みなどを強化します。

「次世代成長モデル」として、将来の成長戦略構築に向けた新機軸の検討をします。〈エパール〉、水溶性ポパールフィルム、〈ジェネスタ〉といったコア事業を強化するこれまでの戦略は今後も継続しますが、同時に将来の成長戦略構築に向け、例えばバイオ関連素材や活性炭、あるいは電池材料といった分野でアライアンスやM&Aなどの手法を含めた検討を進め、事業領域の拡大を目指します。

「経営資源の最適配置」として、グローバルにITシステムや人材活用などを行い、経営基盤の強化を図ります。

Q.4 | 事業のグローバル展開が進んでいますが、グローバルな経営基盤の強化について教えてください。

A. 従来より海外でも積極的に投資を実施していましたが、2014年6月の米国デュポン社からのGLS事業買収により事業のグローバル展開がさらに進み、2013年度に55%であった海外売上高比率は、2015年には65%まで拡大しました。こうした状況でするので、グローバルな経営基盤の構築がますます重要になってきています。

当社は2014年に海外子会社と決算期を統一し、グローバル事業運営の効率化を図りましたが、前述のGLS事業買収もあり、海外事業のITシステム統合の必要性が高まりました。そこで経営情報および会計システムの開発や導入に必要な投資を

2016年に実施します。

また、海外人材活用の一環として、海外人材を執行役員に積極的に登用しています。現在は、GLS事業買収に伴い米国デュポン社から移籍してきたコックス氏を含む4名の外国人執行役員が、事業部長や海外子会社の運営責任者として活躍しています。

更に制度やシステムといった面だけではなく、当社の企業理念などをグローバルに浸透させる取り組みも実施しました。現在、海外27カ国の70を超える拠点で、グループ全体の約3割にあたる約2,400人の社員が働いていますが、この海外グループ社員と企業理念などを共有するために、2015年度に企業ステートメントを再編いたしました。当社の企業文化である「世のため人のため、他人のやれないことをやる」を企業ミッション(使命)に再定義するなど、外国人社員にも理解しやすい内容に再編するとともに、外国人幹部社員への説明会の実施や7カ国語で作成した冊子の全グループ社員への配布など、啓蒙にも努めています。

企業ステートメント

私たちの使命

Our Mission

私たちは、独創性の高い技術で産業の新領域を開拓し、自然環境と生活環境の向上に寄与します。
一世のため人のため、他人のやれないことをやる

私たちの信条

Our Values

Philosophy
理念：個人の尊重
同心協力
価値の創造

Guiding Principles
行動原則：安全はすべての礎
顧客のニーズが基本
現場での発想が基本

私たちの誓約

Our Commitment

私たちは、

- ・安全に配慮した高品質の商品・サービスを開発、提供します。
- ・社会との対話を図り、健全な関係を保ちます。
- ・地球環境の保全と改善、安全と健康の確保に努めます。
- ・働く仲間を思い、その権利を尊重します。
- ・自由、公正、透明な取引を実践します。
- ・知的財産を尊重し、情報を適切に管理します。

「Re-Create」〈クラリーノ〉50年の歴史と



取締役・専務執行役員 松山 貞秋

Q.1 | 2015年に〈クラリーノ〉が発売50周年を迎えましたが、50年の歴史を振り返っていかがでしょうか？

A. おかげさまで、昨年〈クラリーノ〉を発売してから50周年を迎えることができました。

〈クラリーノ〉は天然皮革の構造と性能を化学の力で再現し、日本で初めて事業化に成功した人工皮革です。「一番難しいものから作る」という研究者の想いから様々な失敗とチャレンジを繰り返しながらも、「優美な外観」、「軽くてしなやか」、「水に強い」、「強くて丈夫」、「手入れが簡単」、「豊富なカラーバリエーション」といった特長を兼ね備えた、高機能な〈クラリーノ〉へと進化し続けております。そして、その特長からランドセル・靴・手袋・インテリア・衣料等の様々な用途で長年親しまれております。

〈クラリーノ〉の名前の名付け親は発売当時の当社二代目社長の大原總一郎です。トランペットの古い型の吹奏楽器が由来で「ただ新しいだけでなく、その製品の本質に対して、古典的

な価値を持たせたい」という想いがあります。クラレというオーケストラの中で勇壮にファンファーレを奏でるトランペットのような活躍を期待して名づけられました。

昨年11月には〈クラリーノ〉発売50周年を記念してイベントを開催し、大盛況のうちに終了できました。イベントの合言葉を「Re-Create」としましたが、これには人工皮革のトップメーカーとして50年の歴史に慢心することなく、気持ちを新たに前に踏み出していこうという強い想いを込めております。この50周年を機に、更なる新商品を世界に発信し、新たな歴史を刻んでいきたいと思っております。

Q.2 | 〈クラリーノ〉の今期の業績が好調と伺いましたが？

A. 不採算銘柄の中国移管・生産拡大による収益改善に加えて、環境対応型の新製法で開発した〈ティレニーナ〉の拡販が進んだことで、2015年は好業績を収めることができました。中国生産については、2005年に現地に合弁会社を設立し、中国生産を開始しました。そして2011年からは、低採算銘柄生産移管を加速しつつ、日本ではランドセル、ブランド衣料・雑貨などの高付加価値品と〈ティレニーナ〉の生産に特化しました。現在は、中国生産品の品質も安定し、汎用用途で低コストを武器に拡販しております。

環境対応型の新製法で開発した〈ティレニーナ〉は、当社独自の水溶性ポリマーを活用することで、製造工程で有機溶剤を不要とした環境に優しい素材であると同時に、天然皮革により近い充実感を有し外観、質感に優れた高感性の素材に仕上げることができました。従来の〈クラリーノ〉とは異なる特徴を持つ素材として評価を得て、用途範囲が順次広がってきました。

Q.3 | ランドセルと言えば〈クラリーノ〉ですので、ランドセルについて教えてください。

A. お陰様で、軽くてお手入れが簡単、耐久性に優れている〈クラリーノ〉はランドセルの約7割にご使用いただいております。実は私は入社以来、担当から部長時代まで〈クラリーノ〉のランドセル用途を担当しておりました。30~40年前、当時は天然皮革のランドセルがまだまだ主

更なる革新への挑戦

流の中、ランドセルメーカーや全国の販売店舗への訪問を繰り返し、販売のアイデアを練る毎日でした。

ご存知のとおり、ランドセルはお子様の毎日をサポートする学用品であるとともにご家族からお子様への心のこもった贈り物でもあります。長年、ご家族が笑顔になれる商品に関わってこられたことをうれしく思います。当時は黒と赤色が主体だったランドセルも、現在では多色化が進んでおり、お子様が自由にカラーを選べるようになっております。最近では、男の子には傷に強い〈タフロック〉タイプ、女の子には華やかなパール色などが特に人気です。

また、当社は日本の小学生が使用したランドセルをアフガニスタンに送る『ランドセルは海を越えて』の社会貢献活動を推進しております。これまでの12年間で約10万個のランドセルをアフガニスタンにお届けしました。現地の子供たちも非常に喜んでくれており、今年も多くの子供たちがランドセルの到着を楽しみに待っていていております。

これからも私たちは、〈クラリーノ〉という素材を通して、ジャパンプオリティによるお子様が安心して使えるランドセル作りに貢献できるように、一層、力を注いでいきたいです。



Q.4 | 〈ティレニーナ〉の高級天然皮革代替用途拡大について教えてください。

A. 〈ティレニーナ〉の高級天然皮革代替用途を拡大するために、従来にない全く新しい取り組みとして欧米タンナーとの共同開発を行っています。タンナーとは、染色やスプレー加工等を行う皮なめし業者のことです。天然皮革のなめしと同様の仕上げを〈ティレニーナ〉に施すことで、高級皮革調の風合・充実感を実現できました。このタンナー仕上げ〈ティレニーナ〉を2015年9月にイタリア・ミラノで開催された世界最大級の皮革見本市「リネアペレ」に参考出展し、好評を博しました。

このタンナー仕上げ〈ティレニーナ〉で、高級かばん、紳士・婦人靴などの有名ブランドでの採用を目指します。新興国での



需要増や飼料価格の高騰などを背景に、高品質な天然皮革の価格がここ数年で約2倍に高騰したため、天然皮革代替として高品質な人工皮革に対する引き合いは増加しています。こうした状況ですので、〈ティレニーナ〉のタンナー仕上げ品による高級天然皮革代替需要の拡大に期待しています。

Q.5 | 〈クラリーノ〉の事業拡大策を教えてください。

A. 高級な天然皮革調製品の市場やIT向け等をはじめとする新規市場は今後益々拡大していくと思いますが、高級天然皮革の供給量は不足していくと見ております。ですから我々は〈ティレニーナ〉で高級天然皮革代替用途や新規用途の開発・拡販を推進していきます。

一方で、既存プロセス品は販売を拡大するとともに収益向上を図ります。具体的には国内生産品は高付加価値用途に特化し、中国生産品は安定品質とコストメリットを武器に、拡販を図っていきます。

これらの施策により、〈クラリーノ〉事業の収益性の向上を図るとともに更なる成長を目指します。



2015年度のクラレグループの主なニュースを

トヨタの燃料電池自動車「MIRAI」に〈ジェネスタ〉が採用

高機能ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉が、トヨタ自動車株式会社の燃料電池自動車「MIRAI」に採用されました。当社では今回の採用を受け、自動車分野においても、更なる採用拡大を目指します。

〈ジェネスタ〉について

世界に先駆けて原料モノマーから自社開発した耐熱性ポリアミド樹脂で、1999年に事業化した当社の独自素材です。耐熱性、耐薬品性、耐摩耗性、低吸水性、電気絶縁性などの特長を有し、車両軽量化のニーズが高まる自動車分野で、冷却系部品や燃料チューブなど金属代替での用途拡大が進んでいます。

「MIRAI」への採用について

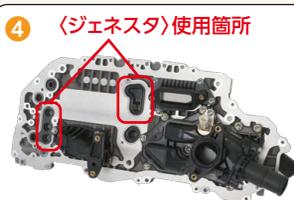
燃料電池車は、水素と空気中の酸素の化学反応を利用して電気をつくる発電装置「燃料電池スタック」を心臓部に搭載しており、発電に必要な水素や酸素、また、燃料電池を冷却するための冷却水を供給する「スタックマニホールド」と呼ばれる「燃料電池スタック」の配管部品に〈ジェネスタ〉が採用されました。



燃料電池自動車「MIRAI」

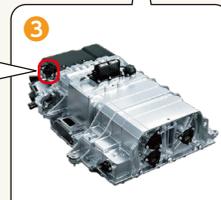


2



4 〈ジェネスタ〉使用箇所

燃料電池スタックの「スタックマニホールド」



3

燃料電池スタック

1～3写真提供:トヨタ自動車株式会社様
4写真提供:トヨタ紡織株式会社様

2015年

1月

7月

8月

9月

2015年1-6月のクラレグループトピックス

- 欧州におけるEVOH樹脂〈エバル〉生産能力の増強を決定
- オーストラリアPlantic社を買収
- 「2015年ミラノ国際博覧会 日本館」に協賛
- 当社社長 伊藤正明がベルギー王国より王冠勲章コマンドール章を受章
- 鹿島事業所が「第39回日化協安全表彰」で安全最優秀賞を受賞
- 薄型高靱性セメントボードを活用したコンクリート補修工法が土木学会技術開発賞を受賞

〈クラリーノ〉50周年記念式典

2015年11月11日、〈クラリーノ〉発売50周年の記念式典をウエスティンホテル東京で開催しました。記念式典では〈クラリーノ〉50年の歴史を映像で振り返り、環境対応型の人工皮革〈ティレニーナ〉の紹介を行いました。取引先の皆さまをはじめとする総勢約400名の方々にお越しいただき、盛況のうちに記念式典を終了できました。



ご来場の皆さまに挨拶する伊藤社長(上)と松山取締役専務執行役員(下)

ご紹介します。

※記載している情報は発表日時点のものです。

光学用ポパールフィルム生産設備の増設を決定

LCD(液晶ディスプレイ)の基幹部材である偏光フィルムのベースとなる光学用ポパールフィルムの生産設備を、西条事業所において増設することを決定しました。

設備増設の背景

液晶テレビは、表示画像の高精細化と画面サイズの大型化により、LCD市場の拡大を牽引しています。このような市場環境において、LCDの基幹部材である偏光フィルムのベースとして、光学用ポパールフィルムの需要は拡大基調にあり、生産設備の増設を決定しました。

なお、今回増設する新系列では、昨今偏光フィルムに求められるようになった薄型化のニーズにこたえるため、薄膜タイプ(45 μ m以下)の光学用ポパールフィルムを高品質・安定的に生産します。

設備増設の概要

場 所	株式会社クラレ 西条事業所 (愛媛県西条市朔日市892)
生産能力	年産2,000万 m^2
稼働時期	2017年初(予定)

光の射出方向を制御可能なLED照明用導光板を開発

光の射出方向をコントロールして、必要な方向を集中して明るくできる、日本初の異方射出導光板を開発しました。同導光板を使用したLED照明がこのたびオープンする西条中央病院(愛媛県西条市)の新棟に採用されました。

クラレの異方射出導光板について

当社製の透明度の高いメタクリル樹脂シートに、独自のマスタリング(原盤製作)技術を駆使してミクロン単位の微細なパターンを成形した導光板です。従来の直下照明に比べて設計の自由度が高く、効率的なスペースの活用やデザイン性の高い空間設計が可能になります。



異方射出導光板を使用したLED照明
(西条中央病院)



直下照明(従来品)

異方照明

10月

11月

12月

2016年

1月

蔵王ジャンプ台ネーミングライツパートナーに選出

山形市が保有する蔵王ジャンプ台のネーミングライツパートナーに選出され、2016年1月1日より、山形市蔵王ジャンプ台の名称が「クラレ蔵王ジャンツェ」となりました。

当社は2013年より女子スキージャンプの高梨沙羅選手の所属先として、同選手の競技サポートを開始しました。蔵王は、高梨選手が練習や試合で頻繁に使用させて頂いているジャンプ台で、且つ、ワールドカップで初優勝(2012年)したメモリアルなジャンプ台でもあります。

今後、当社は、高梨選手をはじめとする国内外ジャンプ選手の競技力向上において、ネーミングライツパートナーとして良好な練習・試合環境の提供を通じて貢献して参ります。



高梨沙羅選手

株式会社クラレハ・バッテリー・マテリアルズ・ジャパンとの合併解消と株式会社バイオハードカーボンの吸収合併

LiB(リチウムイオン二次電池)用材料を取り扱う株式会社クラレハ・バッテリー・マテリアルズ・ジャパンとの合併を解消し、植物系ハードカーボン負極材の製造を行っている株式会社バイオハードカーボンを吸収合併することとなりました。

今後、クラレグループは、LiBを核として用途が拡大・多様化する蓄電デバイス市場に取り組み、市場動向や顧客ニーズに応えることで、LiB関連事業の拡大を目指していきます。

連結損益計算書の要約

(単位:億円)

科目	当期*1	前期*2	増減
売上高	5,217	4,850	368
売上原価	3,551	3,432	120
売上総利益	1,666	1,418	248
販売費及び一般管理費	1,005	904	101
営業利益	661	514	147
営業外収益	39	42	△ 3
営業外費用	55	46	9
経常利益	645	510	136
特別利益	11	7	4
特別損失	71	102	△ 31
税金等調整前当期純利益	585	414	171
法人税、住民税及び事業税	183	155	28
過年度法人税等	15	—	15
法人税等調整額	23	△ 23	46
少数株主損益調整前当期純利益	365	282	82
少数株主利益	7	8	1
当期純利益	357	275	83

*1: 2015年1月1日~2015年12月31日 *2: 2014年1月1日~2014年12月31日

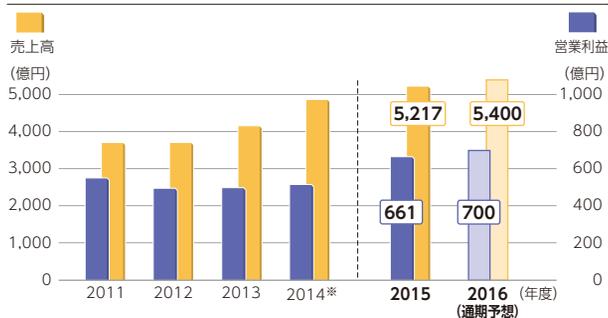
連結貸借対照表の要約

(単位:億円)

資産の部	当期*1	前期*2	増減
流動資産	2,965	2,692	273
現金及び預金	370	339	31
受取手形及び売掛金	1,021	1,050	△ 29
有価証券	188	25	163
棚卸資産	1,122	1,071	51
繰延税金資産	76	47	29
その他	194	165	29
貸倒引当金	△ 6	△ 6	△ 0
固定資産	4,053	4,223	△ 171
有形固定資産	2,620	2,624	△ 4
建物及び構築物	540	527	12
機械装置及び運搬具	1,280	1,203	77
建設仮勘定	566	626	△ 60
その他	235	268	△ 33
無形固定資産	840	888	△ 49
投資その他の資産	593	711	△ 118
投資有価証券	461	543	△ 83
その他	133	168	△ 35
貸倒引当金	△ 1	△ 0	△ 0
資産合計	7,018	6,915	102

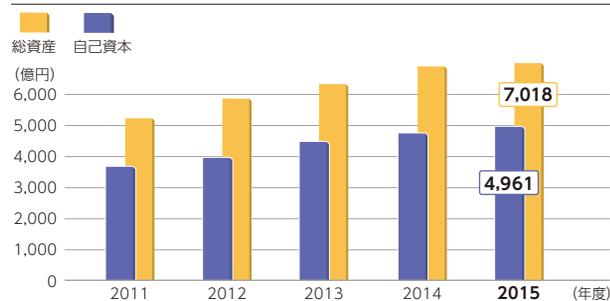
*1: 2015年12月31日現在 *2: 2014年12月31日現在

売上高・営業利益



* 2014年度は2014年1月~12月の12ヵ月に補正した数値を示しております。

総資産・自己資本



※損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の金額表示は、億円未満を四捨五入しています。

(単位:億円)

負債の部	当期*1	前期*2	増減
流動負債	955	1,099	△ 145
支払手形及び買掛金	383	430	△ 47
短期借入金及びコマーシャルペーパー	72	221	△ 149
その他	499	448	51
固定負債	1,027	998	30
社債	100	100	—
長期借入金	423	423	△ 1
その他	505	474	30
負債合計	1,982	2,097	△ 115
純資産の部	当期*1	前期*2	増減
株主資本	4,507	4,236	271
資本金	890	890	—
資本剰余金	871	872	△ 0
利益剰余金	2,789	2,856	△ 67
自己株式	△ 43	△ 381	338
その他の包括利益累計額	454	512	△ 58
その他有価証券評価差額金	108	93	15
繰延ヘッジ損益	△ 0	1	△ 1
為替換算調整勘定	394	469	△ 75
退職給付に係る調整累計額	△ 48	△ 51	3
新株予約権	8	10	△ 1
少数株主持分	67	61	6
純資産合計	5,036	4,818	218
負債及び純資産合計	7,018	6,915	102

*1: 2015年12月31日現在 *2: 2014年12月31日現在

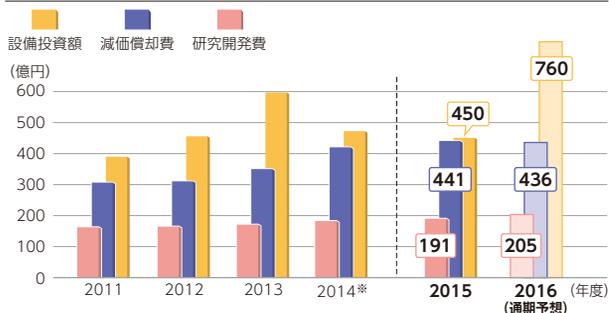
連結キャッシュ・フロー計算書の要約

(単位:億円)

科目	当期*1
1.営業活動によるキャッシュ・フロー	932
税金等調整前当期純利益	585
減価償却費	441
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△ 70
その他営業活動による支出	△ 24
2.投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 486
有形・無形固定資産の取得による支出	△ 431
株式買収及び事業買収・譲渡による収支	△ 44
その他投資活動による収支	△ 10
3.財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 244
借入金の純増減額	△ 151
配当金の支払額	△ 96
その他財務活動による収支	3
4.現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 10
5.現金及び現金同等物の増減額	194
6.現金及び現金同等物の期首残高	354
7.新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—
8.連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—
9.現金及び現金同等物の期末残高	548

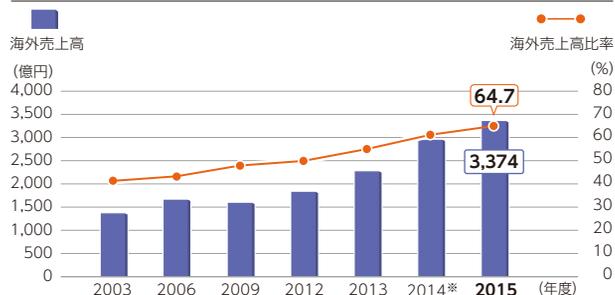
*1: 2015年1月1日～2015年12月31日

設備投資額・減価償却費・研究開発費



※ 2014年度は2014年1月～12月の12ヵ月に補正した数値を示しております。

海外売上高推移



※ 2014年度は2014年1月～12月の12ヵ月に補正した数値を示しております。

株式の状況

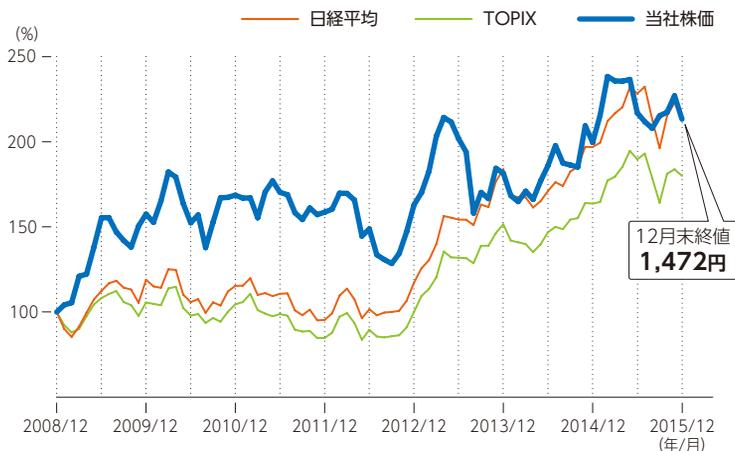
発行可能株式総数	1,000,000,000 株
発行済株式の総数	354,863,603 株
株主数	48,652 名

株主構成 (持株比率)



当社株価と主要指標との比較 (2008年12月~2015年12月)

2008年12月を100として、各指標の動きを指数化して比較しています。



投資家向けページのご案内

当社ホームページ内の投資家向けページでは、決算情報の提供に加え、決算説明会や株主総会の様子の動画配信などタイムリーに情報を掲出しています。是非ご覧ください。

投資家の皆様へ



<http://www.kuraray.co.jp>

クラレ 検索

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎0120-782-031
(受付時間 土・日・祝祭日を除く9時~17時)

アンケート ご協力をお願い

2016年4月29日(金)まで

「クラレ通信」をご覧いただきまして、ありがとうございます。
今後とも株主の皆様との双方向のコミュニケーションを図っていきたく思っております。つきましては、アンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、プレゼントをスピーディーにお届けするため、アンケートの回答を原則Web経由とさせていただきます。将来的にWebのみの受付に集約することを考えておりますので、パソコンから以下アンケートサイトにアクセスの上、是非ご利用くださいますようお願いいたします。

ご回答いただいた方には、もれなく
**不織布衛生ふきん〈クラフレックス〉
カウンタークロス〈和雅楽(わがら)〉
3枚入り1セットをプレゼントいたします。**

不織布衛生ふきん〈クラフレックス〉 カウンタークロス〈和雅楽(わがら)〉 3枚入り1セット

テーブル拭きや食器拭き、調理用ふきんとしてレストランなどの飲食店で大好評をいただいている〈クラフレックス〉カウンタークロスの新シリーズ〈和雅楽(わがら)〉を皆様のご家庭へ。乾きが早く、汚れ落ちがよい為、衛生的。繰り返しお使いになれます。洗濯・漂白も可能です。



アンケートサイト(画面)への接続方法

Yahoo! JAPAN®やGoogle®などの検索エンジンからアンケートサイトを呼び出します。

株主ひろば

または、下記URLを入力ください。

kabuhiro.jp

ご回答方法



アンケートナンバー

●●●●●●●●

アンケートサイト画面中央の入力ボックスに、アンケートナンバー●●●●●●●●を入力の上、回答画面にお進みください。
事前に同封の配当金計算書・配当金領収証をお手元にご準備ください。

操作方法などの問い合わせ先

株式会社クラレ IR・広報部
電話：03-6701-1075
平日 9:00-12:00/13:00-17:30 土日祝 休み

* インターネットをご利用できない場合は、添付のアンケートはがきによるご回答も受け付けいたします。なお、はがきによるご回答の場合、プレゼントの発送が遅れる場合がございます。予めご了承ください。

株主ひろば kabunushi-hiroba

このアンケートは、株式会社アイ・アール ジャパン(IR支援会社)が運営するWebアンケートシステム「株主ひろば」を利用して実施しています。

会社概要

クラレは世界的な社会的責任投資(SRI)株式指数の構成銘柄に選定されています。

社名	株式会社 クラレ
英文社名	KURARAY CO., LTD.
設立	1926(大正15)年6月24日
資本金	890億円(2015年12月31日現在)
東京本社	〒100-8115 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービル TEL(03)6701-1000 FAX(03)6701-1005
大阪本社	〒530-8611 大阪市北区角田町8-1 梅田阪急ビル オフィスタワー TEL(06)7635-1000 FAX(06)7635-1005
ホームページ	http://www.kuraray.co.jp

クラレグループの主な事業

ビニルアセテート	ポパール樹脂・フィルム、PVB樹脂・フィルム、EVOH樹脂・フィルムの製造・販売
インプレン	インプレン系化学品、ポリアミド樹脂の製造・販売
機能材料	メタクリル樹脂、メディカル関連製品、人工皮革の製造・販売
繊維	ビニロン、不織布、面ファスナー、ポリエステル繊維の製造・販売
トレーディング	繊維製品、樹脂、化学品の輸出入・卸売
その他	炭素材、水処理用高機能膜・システムの製造・販売、エンジニアリング事業

- (注) 1.この冊子に記載した当社財務データはすべて連結ベースです。
 2.この冊子に記載の()をつけた名称は、当社グループの製品の商標です。
 3.この冊子に記載した億円単位の当社財務データ(実績値)は、億円未満を四捨五入して表示しています。

役員 (2016年3月29日現在)

代表取締役会長	伊藤 文大
代表取締役社長	伊藤 正明
取締役・専務執行役員	松山 貞秋
取締役・専務執行役員	久川 和彦
取締役・専務執行役員	早瀬 博章
取締役・常務執行役員	古宮 行淳
取締役・常務執行役員	中山 和大
取締役・常務執行役員	阿部 憲一
取締役・常務執行役員	佐野 義正
取締役・常務執行役員	豊浦 仁
取締役(社外取締役)	浜口 友一
取締役(社外取締役)	浜野 潤
常勤監査役	村上 敬司
常勤監査役	雪吉 邦夫
監査役(社外監査役)	藤本 美枝
監査役(社外監査役)	岡本 吉光
監査役(社外監査役)	名倉 三喜男
執行役員	マティアス グトヴァイラー (Matthias Gutweiler)
執行役員	ジョージ アブディ (George Avdely)
執行役員	山根 幸則
執行役員	大村 章
執行役員	柏村 次史
執行役員	中島 多加志
執行役員	林 洋秀
執行役員	スコット ベニング (Scott Bening)
執行役員	ステファン コックス (Stephen Cox)
執行役員	津軽 利紀
執行役員	高野 浩一
執行役員	高井 信彦
執行役員	尾松 俊宏
執行役員	川原 仁
執行役員	鈴木 一
執行役員	中村 育雄

【表紙の写真について】 当社グループ社員が撮影した写真を表紙に使用しています。

所 属：(株)クラレ 岡山事業所
 ポパール・エパール生産・技術開発部
 名 前：福見 友宏
 タイトル：桃色レストラン
 撮影場所：岡山県岡山市内の寺院

撮影者のコメント：河津桜の花の蜜を吸い忙しく飛び回るメジロの一コマです。メジロと桜の写真は定番ですが、春の訪れを肌で感じられる好きな組み合わせです。